

1. 素案に関する主なご意見及び対応について (案)

- 人口減少・超高齢化の進展が見込まれる中でも、長期的に都市活力を維持するため策定した「立地適正化計画（H28.4）」を改定予定。(施策展開の方向性等の盛り込み及び防災視点の強化等)
- 多核連携推進都市協議会（会長：市長、委員：学識、民間、市民、関係行政機関）や庁内会議等での議論を経てとりまとめた「素案」についてパブリックコメント等の意見聴取を実施。
- ご意見等を踏まえ「案」としてとりまとめ、年度内の改定を目指す。

①パブリックコメント(R2.12.25～R3.1.25) 計19件

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応	
1	第3章 熊本市における立地適正化計画	都市機能誘導区域等へのアクセス手段として記載してある“コミュニティ交通”は、具体的な案や導入している地域と方法を紹介してはどうか。	ご意見を踏まえ、現在本市で導入しているコミュニティ交通について追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P54)
2		都市機能誘導区域間のアクセス手段について、健軍は市電、植木方面はバス等、それぞれの地区への手段を記入してはどうか。	今回、関連する「熊本地域公共交通計画」から抜粋した地域公共交通の将来像を記載しており、各方面の幹線を担う交通機関を示しています。	対応2 既記載 (資料③P55)
3	第4章 都市機能誘導区域	地図上に文字で場所が記載してあるが、位置を示した点がないのでわかりづらい。	各地区の地図上に代表的な施設名等とその位置を示した点を記載しました。	対応1 補足修正 (資料③P68～83)
4	第7章 具体的な施策(都市機能)	中心市街地に近い地区とそれ以外の地区では環境も違うため、それぞれにあった地域の核づくりが必要。	今後は、各地域の皆様と連携しながら地域資源や特性を踏まえた施策の立案・展開を進めて参ります。	対応2 既記載 (資料③P104)
5		15の地域拠点に各企業や個人がリモートワークできるオープンスペース設置等のインフラ整備を盛り込んでほしい。更に防災の連絡拠点になることも考えられ、市役所などの出張先になるような仕組みを考えてはどうか。	現在、各地域拠点における機能強化の推進に関する検討を行っています。ご意見につきましても今後の参考にさせていただきます。	対応4 事業参考
6	第7章 具体的な施策(都市機能)(居住)	都市機能が整っていると自然と人は住みたいと思う。今後は、実際に機能や住む場所を提供する開発業者等と考え方を共有していくことも重要。	届出制度等を活用した市民・事業者の皆様方の理解促進はもとより、インセンティブによる誘導施策の展開等にも取り組んで参ります。	対応2 既記載 (資料③P104～105)
7		中心市街地に多い間口が2m以下の土地等では、新築もできないことや、売買が進みにくいことで、空き家問題や地価の下落につながるため、建替え時に改善できるような仕組みをつくってはどうか。	現在、中心市街地を対象に、“まちなか再生プロジェクト”として、建築物の建替に伴う敷地の集約化や、低未利用地の有効活用の促進等、スポンジ化対策についての取組を進めております。	対応2 既記載 (資料③P104)
8	第7章 具体的な施策(公共交通)	デマンド型乗合タクシーなど多様な運行形態によるコミュニティ交通の導入には賛成。既存タクシーを活用する等して、時間・利用目的・場所等の柔軟性に富んだ自由度の高いコミュニティ交通手段も検討してほしい。	ご意見を参考にさせていただき、市民の皆様にとって利用しやすいコミュニティ交通について検討を進めてまいります。	対応2 既記載 (資料③P107)
9		バス車内も座りづらい座席の車体が多い。福岡の西鉄バスのように乗りやすさや便利さを追求してほしい。	交通事業者と連携した利用促進を図ることとしております。ご意見をバス事業者と共有し、皆さまにとって利用しやすい車内環境の整備について検討してまいります。	対応2 既記載 (資料③P107)

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応	
10	通勤でバスを利用したくても、渋滞、満員、少ない運行本数により利用する気になれない。バス停付近の土地を拡張し、後続車の流れを良くするなど、個別具体的にもスピード感をもって取り組んでほしい。	渋滞対策に関して、道路整備プログラムに基づき、主要渋滞箇所の改善や公共交通軸の強化に寄与する道路整備等、着実な事業の推進に努めてまいります。また、利便性向上のため、バスの接近情報をお知らせする「バスロケモニター」の設置やバス停近くのコンビニエンスストア等での「バス待ち処」の設置など、バス事業者と連携し、待合環境の改善に取り組んでいるところです。	対応2 既記載 (資料③P107)	
	第7章 具体的な施策(公共交通)	バス路線を見直すことも重要だが、市内に5社もバス会社があり、それぞれに補助金を入れて運営しているのであれば統廃合し、路線の検討、路線拡大、渋滞緩和、ラッシュ時増便、利用者増加につなげるべき。	現在、5社が共同経営（会社の形態に変更はありませんが、5社が十分に協議してサービスを調整し利便性の維持向上と運行の効率化を図ること）を実施する方向で準備を進めております。	対応3 説明・理解
12	市電の廃止検討により、中心市街地の渋滞緩和やバス利便性向上につながると考えられないか。	市電は1日約3万人、年間約1100万人にご利用いただいております。重要な基幹交通としての市電を更に皆さまに利用して頂けるようサービスの向上などに努め、渋滞緩和等に貢献してまいります。	対応3 説明・理解	
13	電車についても、路線乗り入れ等により便利になるようにできないか。上熊本駅ですぐつながりそうな電車路線もある。	公共交通機関同士の乗り継ぎを良くすることは利用者にとって重要であることから、新しい技術を用いたサービス(MaaS等)について検討を進めてまいります。	対応4 事業参考	
14	各災害リスクに対する足りていないインフラ整備については対策が取られるのか。	今回、居住誘導区域を中心に水害や地震に関する災害リスク分析を行い、抽出した課題を踏まえ取組を整理しました。今後は、危機管理部局など関連部局と今回の分析結果などの共有を図り、河川や道路等インフラ整備をはじめとした防災機能強化に努めてまいります。	対応2 既記載 (資料③P137～139)	
15	第8章 防災指針	誘導エリア外の住民とのコンセンサスが取れるよう、細やかな情報発信と、地域住民に対する丁寧な説明を期待する。	本計画策定にあたっては、市民アンケートや懇話会等いただいたご意見も踏まえ居住誘導区域等の設定を行いました。今後も、各区まちづくりセンターや防災担当部局等と連携し、計画に関する情報発信及び地域住民とのリスクコミュニケーション等に努めてまいります。	対応4 事業参考
	16	深さ以外のリスク情報もまとめて掲載することはいいこと。今回明らかにしたリスク等を周知していくことが重要。ハザード情報を大きな図面で公民館に貼ったり、タブレットに入れて自治会等と共有しておく効果的ではないか。	市民・地域・行政が災害リスクを自覚し、受け止めたうえで具体的な行動や取組につなげていけるよう、ご意見も参考にさせていただきますながら、関係部局とも連携し周知を図ってまいります。	対応4 事業参考

1. 素案に関する主なご意見及び対応について (案) (つづき)

①パブリックコメント (R2.12.25~R3.1.25) (つづき) 計19件

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応
17 素案全体	今後何十年かけてコンパクト化を実現するのか。	多核連携都市の実現には、非常に長期的なスパンを要するものと考えており、完成時期までは定めていませんが、将来像の実現に向け、適宜施策を展開しながら取り組んでまいります。	対応3 説明・理解
18	将来を見据えたとも前向きな計画と感じる。子や孫が熊本に住んでいてよかったと思えるような、まちづくりを実現するよう頑張してほしい。	人口減少・高齢化の進展が見込まれる中でも長期的に都市活力を維持し、誰もが移動しやすく暮らしやすい多核連携都市の実現に向け取り組んでまいります。	対応4 事業参考
19 その他	熊本は渋滞がひどいため、環状道路の整備を応援している。	道路整備に関するご意見として関係部署と共有させていただきます。	対応5 その他

②令和2年第4回都市整備委員会 (市議会) 等 (R2.12.10)

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応
1 第2章 現状把握等	公共交通体系の現状に関する部分に後述の施策にもつながるよう、現状を踏まえた課題についても記載の方がよい。	現状を踏まえた公共交通に関する課題について追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P21)
2 第8章 防災指針	立地適正化計画にて防災視点の強化を図ることはとてもいいこと。今後の対策等を含め、市として引き続き国土強靱化対策に関する国の補助制度を活用してほしい。	引き続き前倒して補正予算を活用する等して取り組み、強靱化につなげてまいります。	対応4 事業参考

③第43回熊本市都市計画審議会 (R2.12.21)

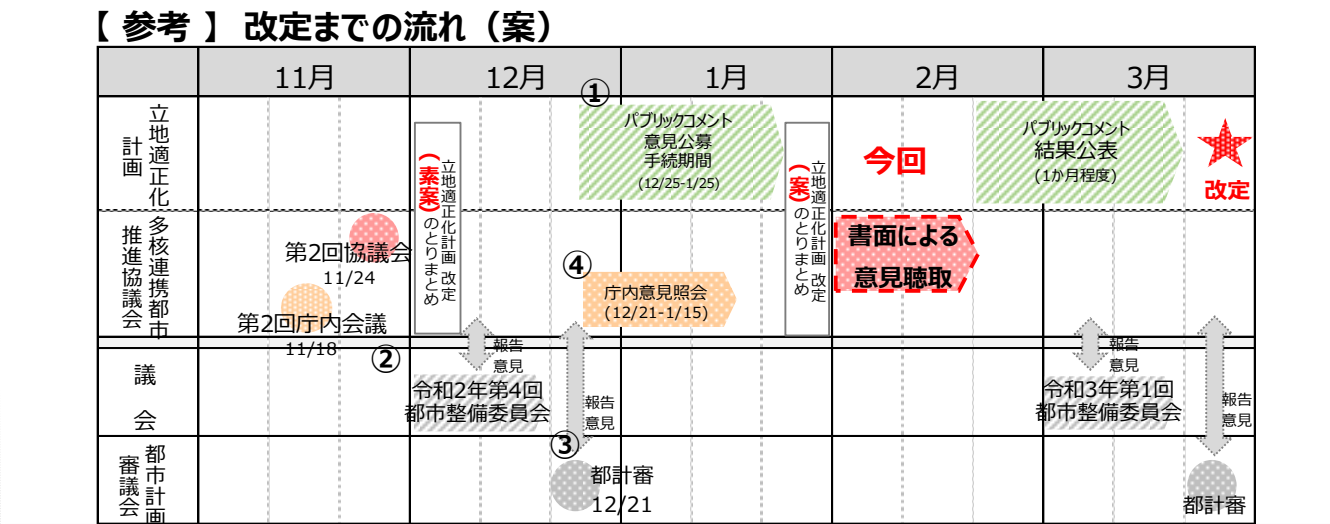
項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応
1 第8章 防災指針	浸水想定において、浸水がどこから発生するか分かりづらい。	「ハザード情報等の収集、整理」及び「分析結果 (地区毎)」にて今回想定している破堤箇所を追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P112、P142~173)
2	防災指針に記載の取組などについて、国土強靱化対策に関する補助制度など十分活用し、スピード感をもって進めてほしい。	国の方針などに基きながらスピード感をもって取り組んでまいります。	対応4 事業参考

④庁内意見照会 (R2.12.21~R3.1.15) ※一部抜粋

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応
1 第7章 具体的な施策	地域コミュニティ維持活性化の取組として、事業名等に「Wi-Fi環境整備等」を追記してはどうか。	地域コミュニティの維持活性化に関する事業として、「■地域コミュニティセンター等へのWi-Fi環境整備等」を追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P106)
2 第8章 防災指針	「浸水想定区域内の居住人口に関する効果目標」について、「地域防災力の向上に関する効果目標」と合わせた記載としてはどうか。	「河川整備推進等により計画規模降雨時の洪水浸水想定区域内の居住人口を現状の約302,000人から令和22年度までに242,000人とする。」といった記載内容に修正しました。	対応1 補足修正 (資料③P139)
3 素案全体	熊本市民全員に安全・安心な都市づくりを示すには、居住機能と都市機能が低い場所に居住せざるを得ない人や地域についても配慮すべき。	今後は郊外部も含めた広域的な地域生活圏全体の居住者の生活利便性を維持するため地域拠点の機能強化を推進してまいります。また、併せて地域コミュニティの維持活性化も重要な視点の一つとして取り組んでまいります。	対応2 既記載 (資料③P102~108)

⑤タスクフォース (国による防災指針に関する省庁横断・ワンストップの相談・支援体制) ※一部抜粋

項目	ご意見等の内容	本市の考え方	対応
1	中高頻度の降雨規模による浸水想定を用いて災害リスクの高い地域を抽出しているが、より頻度の高い地区に対する対応方針を追記できないか。	頻度の高い地区に対して重要となる取組について追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P135、139)
2 第8章 防災指針	課題や取組方針について、それぞれ災害種別を表示できないか。	課題整理や取組方針の図中にて災害種別を追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P134、135)
3	今回の災害リスク分析を踏まえ、居住誘導区域等をどう扱っていくか記載してはどうか。	取組方針や今後の進め方において、「河川整備の進捗状況に応じたハザード情報等を踏まえ居住誘導区域の検証等についても努めていく」旨追記しました。	対応1 補足修正 (資料③P135、140)



2. 今後の立地適正化計画の推進及び会議の開催について (案)

- 来年度以降も、市民の皆様への周知に加え、地域拠点の機能強化に向けた施策検討や、関係部局と連携した災害リスクなどの共有を図りつつ、各種施策の展開及び進捗管理を実施。
- 多核連携都市推進協議会にて、目標値や取組状況等に関するモニタリング結果の報告や協議を行い適宜計画を改定。

